第２７回国頭地区中学校１年生野球大会要項

１．主　　催：　国頭地区中学校体育連盟野球専門部

２．期　　日：　令和2年　12月中までに　1、2回戦及び△リーグを行う。

令和３年１月１０日（日）決勝トーナメント　　９：００　試合開始

　　　　　　　　令和３年１月１１日（月）予備日

３．会　　場：　１・２回戦及び△リーグの対戦校で相談

　　　　　　　　1月10日（日）　東江中学校、宜野座中学校、金武中学校、大宜味中学校で調整しいずれかで行う。

４．参加資格：　（１）国頭地区中体連加盟校であること。

　　　　　　 　 （２）出場チームは１校１チームを原則とするが、２チーム編成できる学校はその限りではない。

また、単独校でチーム編成不可能な場合は、他競技の部員を含めたり、近隣校合同チームによる参加も可とする。（合同チームでの参加の場合は両校の公印が押印された申込書を提出すること。）

　　　　　　　　（３）1チームの登録選手は1年生部員、監督1名、コーチ1名（外部コーチ1名）、記録員1名と

する。

　　　　　　　　（４）参加校の引率、監督は原則として当該校の教職員とする。但し、教職員以外のコーチ（1名）

については学校長の認めた登録されたコーチでなければならない。

（５）次にあげる生徒は、大会に参加できない。

　　　　　　　　　　①　髪型については、各学校の規則に準ずる。　②　額やまゆにソリを入れている生徒

　　　　　　　　　　③　パーマをあてている生徒　　　　　　　　　④　髪を染色・脱色している生徒

　　　　　　　　　　⑤　服装や行動面などで、中学生らしくない生徒　※点検は試合前に整列して専門部が行う。

５．競技規則：　2020年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則並びに本大会規定に準ずる。

【競技に関する連盟特別規則　一七、少年部・学童部に関する事項】の適用

６．大会規定：　（１）競技形式

1. 試合方法はトーナメント方式とする。＊1・2回戦はトーナメント及び△リーグを行う。
2. 試合は7回戦とする。但し、3回以降10点差、5回以降7点差以上の場合はコールドゲームとする。（決勝戦においても同様とする）
3. ７回を完了して同点の場合は、タイブレーク方式とする。１０回を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク方式を続行する。

※天候の都合で日程変更がある場合は、本部で協議の上、特別ルールを設定する。

1. 同日に１チーム３試合は行わない。
2. リーグ戦において勝率が同率となった場合は、抽選によって準決勝進出を決める。
3. 日没、降雨についてのコールドゲームは５回以降とする。それ以前の場合は継続試合とする。

　　　　　　　　（２）試合時間

　　　　　　　　　①　試合は１時間３０分と計算し、１時間前までには球場に到着していること。

　　　　　　　（３）オーダー交換

①　オーダー用紙は各チームで準備し提出する。

②　攻守の決定は前の試合の４回終了時（第1試合は試合開始30分前）に監督立ち会いの上、主

将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。

　　　　　　　　（４）用具

　　　　　　　　　　①　バットリング、トレーニングバット、リストバンド等の使用を禁止する。但し、マスコットバットは認めるが、ネクストバッターズサークルへの持ち込みは１本のみとする。

　　　　　　　　　　②　手袋・リストガードは、原則として「白」か「黒」色の高校野球対応のものを使用する。

　　　　　　　　　　③　ストッキングの形をしっかりと統一する。

　　　　　　　　　　④　全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。

　　　　　　　　　　⑤　捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)入りとSGマーク入りの捕手用ヘルメット、マスク、スロートガード、レガ－ス、プロテクター、ファウルカップを使用すること。（投球練習時の控え捕手も同様）また、打者、走者、次打者、ベースコーチ、バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側のイヤーフラップ（内側にスポンジ等）のついたヘルメットを使用すること。

　　　　　　　　（５）タイムアウト

　　　　　　　　　　①　監督が投手の所へ行く回数の制限

　　　　　　　　　　　　　監督が、１試合に投手の所へ行ける回数は７イニングで３回以内とする。尚、特別延長戦においては、２イニングに１回行くことができる。

　　　　　　　　　　　　　監督が同一イニングに同一投手の所へ２度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。尚、その交代した投手が他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。

②　守備側と攻撃側のタイムの回数制限

　　　　　　　　　　　　　捕手または内野手が、１試合に投手の所へ行ける回数は７イニングで３回以内とする。尚、特別延長戦となった場合は、２イニングに１回行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。

　　　　　　　　　　　　　野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方１度として数える。逆の場合も同様とする。

　　　　　　　　　　③　**投手の球数制限【全日本軟式野球連盟特別規則】**

|  |
| --- |
| 投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。  〇大会１日の投球数・・・・１００球  〇１週間の投球数・・・・・３５０球  ※試合中に１００球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。 |

　　　　　　　　（６）ダッグアウト

　　　　　　　　　①　抽選番号の若いチームを一塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動

しない。

　　　　　　　　　　②　ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止する。

　　　　　　　　　　③　ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。（ベンチ内１個とする。）

（７）その他

1. チームの選手（監督・コーチ含む）は同色、同形のユニフォームを着用する。（合同チームに関してはその限りではない。）尚、スパイクも同色とする。（監督・コーチのシューズも同様）コーチ（教職員）の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
2. 背番号は１から使用し、原則としてポジション順とする。＊予選リーグの際も背番号を着用。
3. 球場内でのグランドコートの着用はチームの統一されたものを着用すること。
4. アピールは当事者か主将、監督に限る。
5. 試合中に起きた事故については応急処置のみとし、その後は各学校で責任を持って処置する。

７．試 合 球：　全日本軟式野球公認M号(内外)を使用する。

尚、各チームから試合球３個とロージン１個を持ち寄りとする。　※試合後は各校へ返却する

８．表　　彰：　（１）優勝チーム、準優勝チームには賞状を授与する。（団体表彰のみ）

　　　　　　　　（２）３位のチームには賞状を授与する。（団体表彰のみ）

９．申し込み：　令和2年12月中に行う予選リーグの際に各球場の球場長へ提出。

10．監 督 会：　令和３年１１月23日（月）　地区新人大会終了後

11．そ の 他：　（１）雨天の場合は、午前７時３０分までに専門部で状況を判断し、各監督へ連絡する。

　　　　　　　　（２）試合後のグラウンド整備及び次の試合の補助員は、両チームで責任をもって行う。  
　　　　　　　　（３）試合の審判は各学校で帯同審判員を２名出すこと。（割り当ては当日各会場にて行う。）

（４）球場内外の清掃は各チームで時間をかけて行う。  
　　　　　　　　（５）ゴミの処理は各学校で責任をもって行う。（ゴミは確実に持ち帰る。）

※会場のゴミ箱は使用しないこと。

　　　　　　　　（６）１年生が少ない学校においては、バットボーイやイニング間の投球練習時の捕手を２年生が行

ってもよい。その際、ユニフォームを着用するが、背番号はつけない。

12．式　　典：　◆閉会式

　　　　　　　　　①　開式のことば（アナウンス）②　成績発表（　　　　　　　）

　　　　　　　　　③　賞状授与（　　　　　　　）

　　　　　　　　　④　閉式のことば（アナウンス）